

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意

和解剤 調和脾胃剤 4

<p>おうれんとう 黄連湯</p>	<p>清上温下・和胃降逆</p>	<p>黄連9g・炙甘草9g・乾姜9g・桂枝9g・人参6g・半夏9g・大棗4g 水煎し服用する。</p>
<p>(傷寒論)</p>	<p>&lt;主治&gt; 上熱下寒（胸中有熱、胃中有寒）、脾胃不和 胸中があつ苦しい、煩躁、悪心、嘔吐、腹痛、腹鳴、下痢、舌苔が白滑などを呈す。</p> <p>&lt;病機&gt; 上熱下寒（胸中有熱・胃中有寒）、脾胃不和で腹痛、悪心を呈する病態である。 風寒の邪が厥陰と中焦に侵入し、厥陰（肝・心包）の枢機を阻滞して陽熱の布達を傷害し、上部で陽熱が鬱滞し、中焦では寒邪によって気機凝滞が引き起こされ、上熱下寒（胸中有熱・胃中有寒）が発生する。このほか、内熱をもつものが生冷物や苦寒薬を摂取して、脾胃の陽気が損傷された場合にも、上熱下寒が生じる。上部で陽熱が鬱しているため、胸中があつ苦しく煩躁がみられ、中焦脾胃には寒凝があり昇降が失調した脾胃不和が生じるために、悪心、嘔吐、下痢、腹痛、腹鳴が発生する。舌苔が白滑は脾胃の寒証を示す。</p> <p>&lt;方意&gt; 清上温下により昇降を整える。 苦寒の黄連で上焦の鬱熱を清し、辛熱の乾姜・桂枝で中焦を温め、辛開苦降により上焦の熱邪を下降させる。半夏で胃気を下降させ、人参・甘草・大棗で脾気を補益し、中焦を調べて扶正達邪する。辛温通暢の桂枝は、乾姜と共に厥陰陽気を振奮して邪を除く。寒熱を併調し昇降を調えれば、症状は自然に消失する。</p> <p>&lt;参考&gt; 瀉心湯類が「心下痞」に設けられているのに対し、本方（黄連湯）は上熱下寒の腹痛、吐瀉に主眼を置いており、半夏瀉心湯の黄芩に代えて、辛温で通陽散寒に働く桂枝が加えられている。 本方（黄連湯）は小柴胡湯の加減方でもある。</p> <p>日本での保険適応効能、効果 胃部の停滞感や重圧感、食欲不振のあるものの次の諸症；急性胃炎、二日酔、口内炎</p>	